後期高齢者の歯科口腔健康診査ってどんなことをするの？

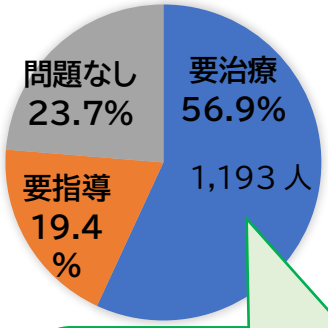
＊問診（質問票による聞き取り）
＊口腔内検査（歯・義歯の状況、かみ合わせ、衛生状況、乾燥状態、粘膜・歯肉・歯周ポケットの状況、１秒間の発声回数、飲み込みのテスト）
＊健診結果の説明/口腔ケアの指導

歯科口腔健康診査の結果からこんなことがわかりました

① 「要治療者」は 56.9%。そのうち『歯周病』が最も多い

『歯周病』は、「糖尿病」や「高血圧」と関連性があると言われており、悪化させないことが重要です。

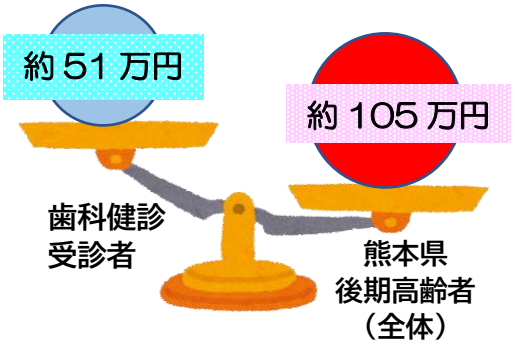
令和２年度
受診者 2,097 人の結果



【要治療の内訳】
1 位　歯周病
2 位　う蝕（むし歯）
3 位　義歯
-----その他-----

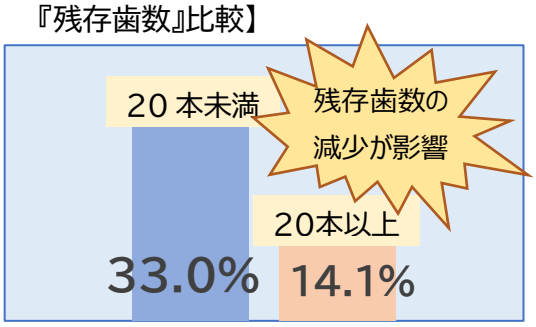
② 「歯科口腔健康診査」を受診した人は年間医療費が低い

【1 人当たりの年間平均医療費の比較】



③質問票から「固いものが食べにくい」と回答した人は 47.1%、「お茶や汁物でむせる」人は 40.9%

【「食べにくい」と答えた47.1%の人の『残存歯数』比較】



～「飲み込みのテスト」結果から～
（30 秒間で 3 回以上だ液を飲み込むテスト）
「むせる」と答えた人の約半数が、「飲み込みのテスト」で基準を下回っており、「飲み込む力」が低下しています。

残存歯の数が少ないと食べにくくなります。また数だけでなく、上の歯と下の歯のかみ合わせが悪くなると、食べにくくなったり、飲み込みが悪くなったりします。

「飲み込む力」の衰えに注意したいのはこんな人

□歯が少ない
□かみ合わせがよくない
□むせる

◎高齢者医療データ分析の結果、口腔の状態が良好な人が全身の健康状態も良好で、医療費や介護給付費も低くなっていました。
◎歯数やかみ合わせは「認知症」「骨折」と関連性があることがわかりました。

「おいしく食べる力」を保ち、いきいきと豊かな生活を送りましょう！

令和 2 年度熊本県後期高齢者歯科口腔健診・医科健診受診者 2,097 人と歯科口腔健診未受診・医科健診受診者 2,097 人（無作為抽出）を対象に健診データとレセプトデータ等を分析した結果を掲載しております。

75歳以上のみなさま

後期高齢者

「おいしく食べる力」を保つため 歯科口腔健康診査

総入れ歯も健診は必要です

歯（義歯も含む）の健康状態とともに、高齢期に注意したい「噛めない、飲み込めない、むせる」などの**口腔機能の低下**を早期に発見・予防することができます。
熊本県では、**75歳から毎年1回、後期高齢者歯科口腔健診**を受診できます。

ポイント1 お口の周りのささいな衰え、低下を「オーラルフレイル」といいます

口の機能、口周りの筋力低下
噛めない
飲み込めない　むせる

→ オーラルフレイルへ

→ 食欲の低下や柔らかいものばかり食べるおそれがあります。

→ この悪循環が続くと低栄養状態などへ

→ 全身の病気にかかりやすくなるおそれがあります。

ポイント2 「オーラルフレイル」の人が抱えるリスク

オーラルフレイルの人は口腔機能が健全な人に比べ、**医療費**や**介護給付費**が高い傾向にあり、**歯の残存数**も全身疾患との関連が報告されています。

身体的フレイル	サルコペニア（筋肉量の減少）	要介護認定	総死亡リスク
2.4倍	2.1倍	2.4倍	2.1倍

口腔機能が健全な人とオーラルフレイルに該当する人を比較しています。
※公益社団法人日本歯科医師会「歯科診療所におけるオーラルフレイル対応マニュアル2019版」より抜粋

ポイント3 オーラルフレイルのセルフチェック表

質問事項	はい	いいえ
□ 半年前と比べて、堅い物が食べにくくなった	2	
□ お茶や汁物でむせることがある	2	
□ 義歯を入れている※	2	
□ 口の乾きが気になる	1	
□ 半年前と比べて、外出が少なくなった	1	
□ さきイカ・たくあんくらいの堅さの食べ物を噛むことができる		1
□ 1日に2回以上、歯を磨く		1
□ 1年に1回以上、歯医者に行く		1

合計の点数が	オーラルフレイルの危険性
0～2点	低い
3点	
4点以上	高い

※歯を失ってしまった場合は義歯等を適切に使って堅い物をしっかり食べることができるよう治療することが大切です。
※公益社団法人日本歯科医師会　リーフレット「オーラルフレイル」より抜粋

健診項目（歯科健診）
- 歯・入れ歯の状況
- かみ合わせ
- 口腔内の異常
- 飲み込む機能の評価

など

自己負担金 400円
※市町村により異なります

歯科健診のお申し込み、またはお問い合わせは、お住まいの「市（区）役所」「町・村役場」の歯科健診担当窓口へ

熊本県後期高齢者医療広域連合　TEL 096-368-6777